

5
上
主
の
聖
徒
伝
129

「主の約束に 希望を置いて」

列王記第二 10～11章

分断の北・継続の南

アウトライン

0. イントロダクション

I. 北王国・オムリ王朝の滅亡 10章1～11節

II. 北王国・バアル祭司の粛正 10章12～26節

III. 北王国・エフー王の治世 10章27～節

IV. 南王国・惨劇の中の希望 11章

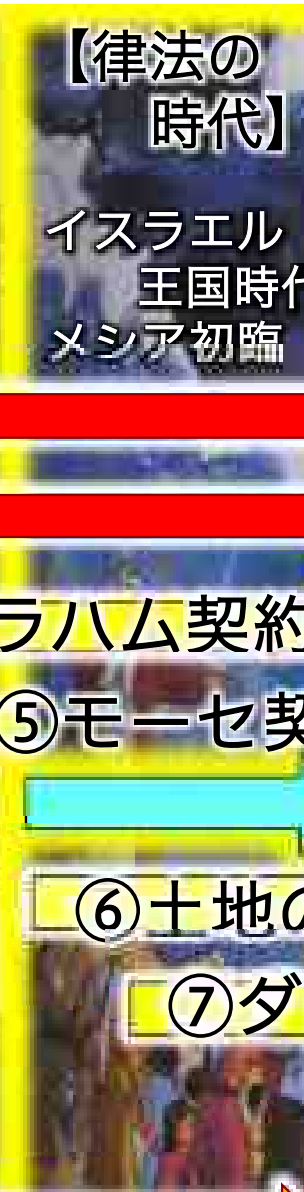
V. まとめと適用

主の約束に力を置いて

今を歩む力を得よう



神殿の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

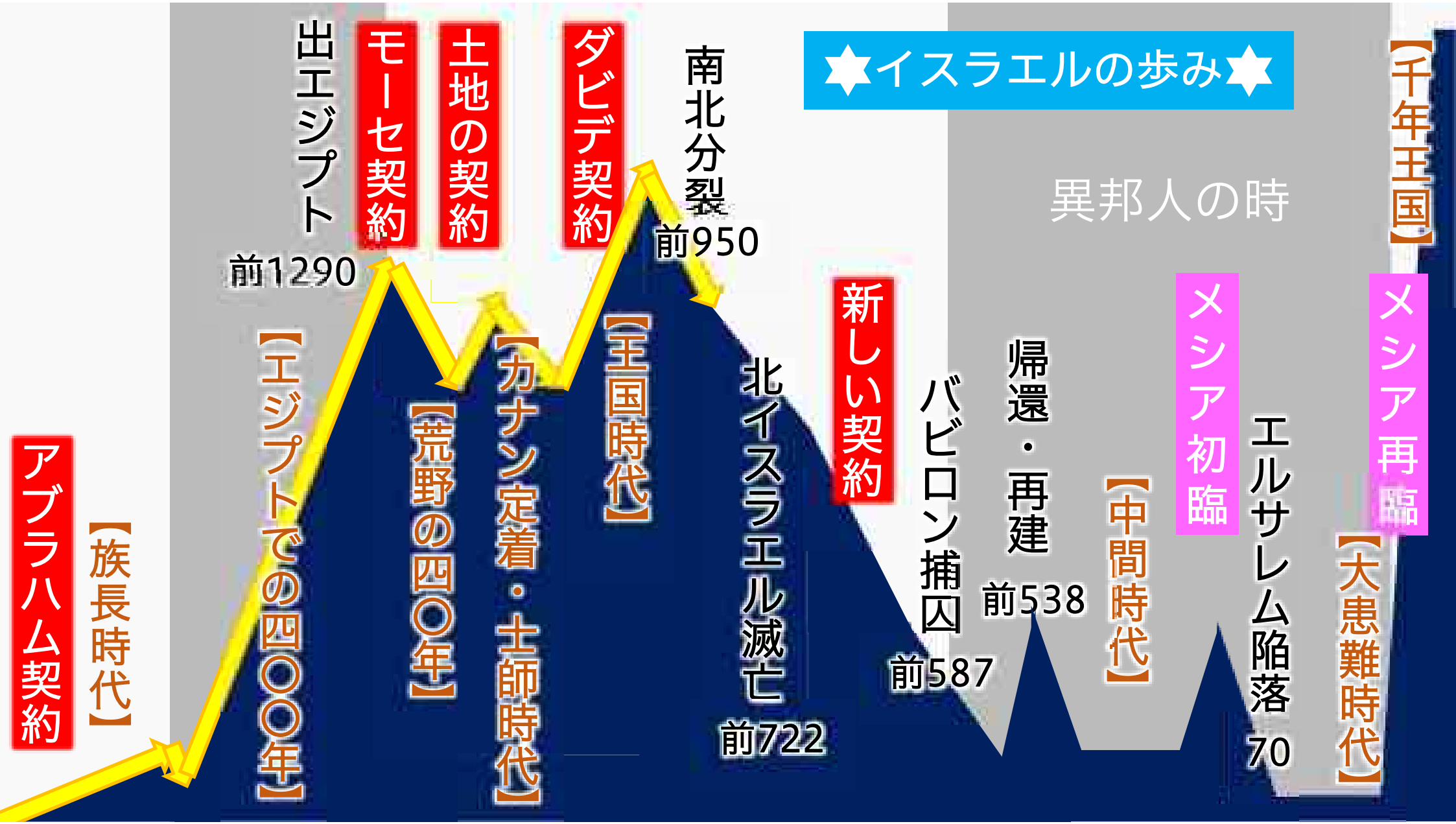
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

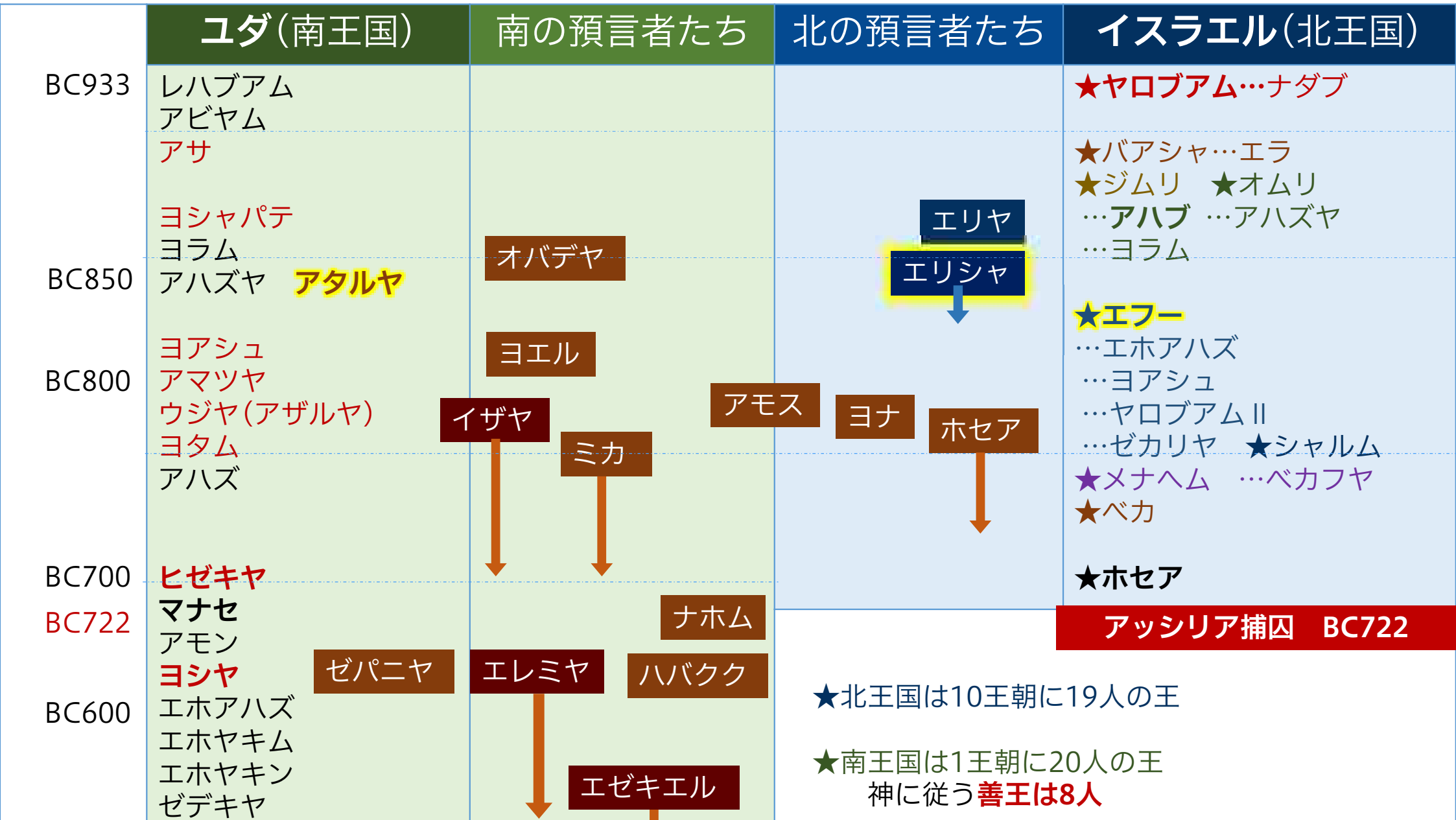
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			アッシリア捕囚 BC722
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			★北王国は10王朝に19人の王 善王はなし ★南王国は1王朝に20人の王 神に従う善王は8人

バビロン捕囚 BC586



【エリヤとエリシャ】 Ⅱ列王記

- 北王国の最悪の王アハブの時代、エリヤは、アハブと妻イゼベルの死と、王朝の滅亡を預言した。
- 天に携挙されたエリヤの後を継いだエリシャを通して、エリヤの預言は成就された。
- 新たに王となったエフーにより、ヨラム王とイゼベルは悲惨な死を遂げた。



A sunset over a valley with a palm tree in the foreground. The sun is low on the horizon, casting a warm glow over the landscape. The sky is a mix of orange, yellow, and blue. The foreground is filled with green trees and a large palm tree on the right side.

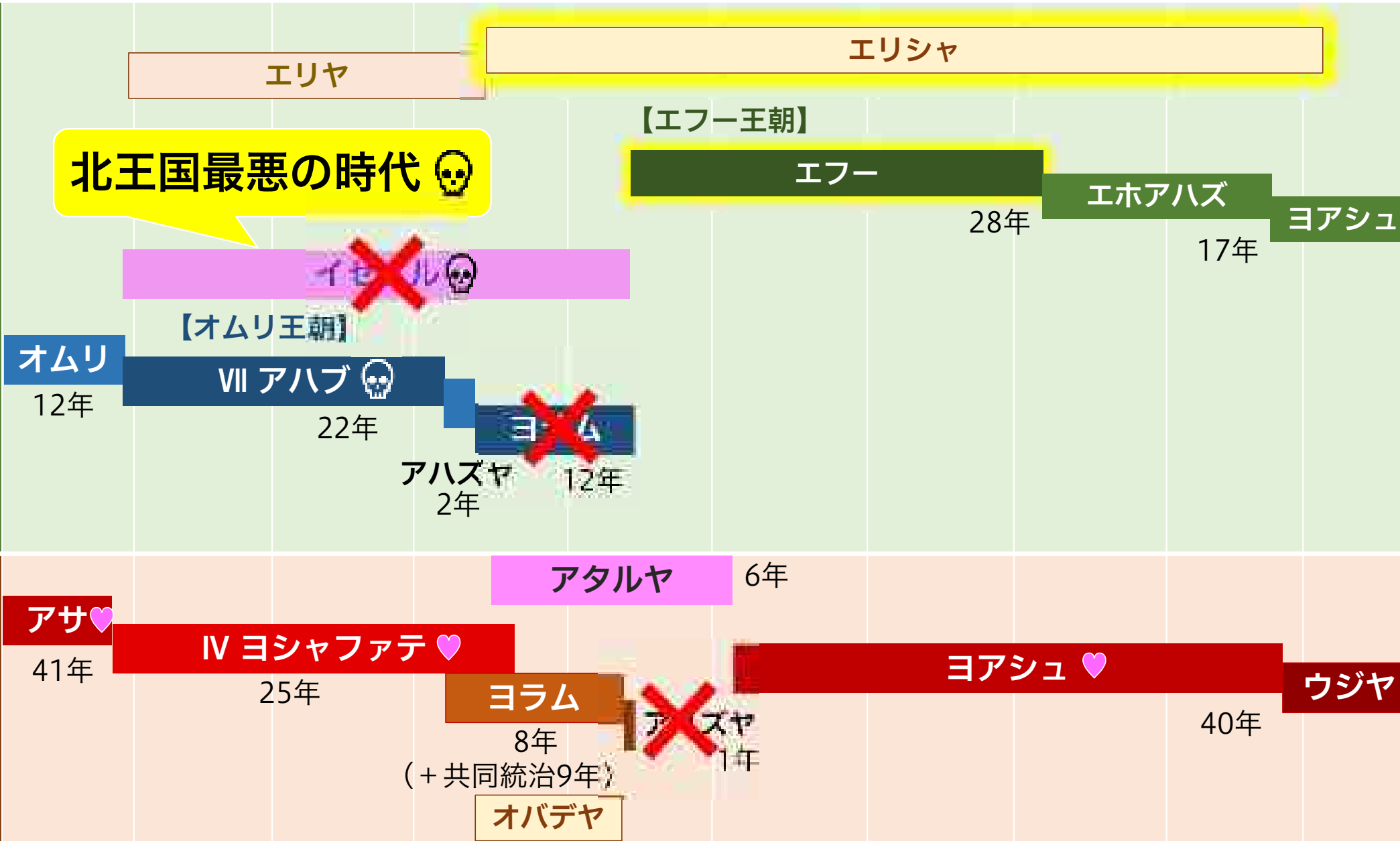
I. オムリ王朝の滅亡

列王記第二 10章1～11節

イスラエル平原の夕日

北王国 イスラエル

南王国 ユダ



北王国最悪の時代 🦴

【エフー王朝】
エフー 28年

イゼル 🦴
【オムリ王朝】

オムリ 12年
VII アハブ 🦴 22年
ヨラム 🦴 12年
アハズヤ 2年

アタルヤ 6年

アサ ♡ 41年
IV ヨシャファテ ♡ 25年

ヨラム 8年 (+ 共同統治9年)
アハズヤ 🦴 1年

オバデヤ

ヨアシュ ♡ 40年

ウジヤ

北10 エフー王 果たし状 II 列王記10:1～3

アハブにはサマリアに七十人の子どもがあった。エフーは手紙を書いてサマリアに送り、イズレエルの長たちや長老たち、および、アハブの子の養育係たちにこう伝えた。

「この手紙が届いたら、あなたがたのところに、あなたがたの主君の子どもたちがいて、戦車や馬も、城壁のある町や武器も、あなたがたのところにあるのだから、すぐ、あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」



北10 エフー王 降伏 Ⅱ 列王記10:4～5

彼らは非常に恐れて言った。「二人の王たちでさえ、彼に当たることができなかったのに、どうしてこのわれわれが当たることができるだろうか。」

そこで、宮廷長官、町のつかさ、長老たち、および養育係たちは、エフーに人を送って言った。「私どもはあなたのしもべです。あなたが私どもにお命じになることは何でもいたしますが、だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください*。」

*戦いに勝ち目はなく、自分たちも全滅するだけ。

長老たちに選択肢はない。どんな要求も飲むだけ。



北10 エフー王 勸告 II 列王記10:6

エフーは再び彼らに手紙を書いてこう言った。
「もしあなたがたが私に味方し、私の声に聞くのなら、あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」そのころ、王の子どもたち七十人は、彼らを養育していた町のおもだった人たちのもとにいた。

- 南北の王が討たれた圧倒的な力を前にして、従って生きのびるか、逆らって死ぬか。道は二つに一つしかない。



北10 エフー王 見せしめ Ⅱ 列王記10:7～8

その手紙が彼らに届くと、彼らは王の子どもたちを捕らえ、その七十人を切り殺し、その首をいくつかのかごに入れ、それをイズレエルのエフーのもとに送り届けた。

使者が来て、「彼らは王の子どもたちの首を持って参りました」とエフーに報告した。すると彼は、「それを二つに分けて積み重ね、朝まで門の入り口に置いておけ」と命じた。

- 新王朝による旧王家の全滅は、人類の歴史の常。
例) 平家の落人狩り。独裁政権による粛正。



北10 エフー王 宣告と懐柔 Ⅱ 列王記10:9~10

朝になるとエフーは出て行き、立ってすべての民に言った。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。

だから知れ。【主】がアハブの家について告げられた【主】のことは一つも地に落ちないことを。

【主】は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」

- 神の裁きの器として用いられたに過ぎないエフー。エリヤに告げられた裁きがついにくだった。



下されたのは
主の裁き!!

北10 エフー王 全滅 II 列王記10:11

エフーは、アハブの家に属する者でイスラエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がないうまでにした。

■ アハブ一族へのエリヤの預言の成就。

「それは、あなたが引き起こしたわたしの怒りのゆえであり、あなたがイスラエルに罪を犯させたためだ。 I 列21:21」



聖絶は
神の裁きの極み

アハブの偶像礼拝の罪は裁かれた



II. 肅正されたバアル祭司 列王記第二 10章12～26節

北10 エフー王 Ⅱ 列王記10:12~13

それから、エフーは立ってサマリアへ行った。その途中、羊飼いのベテ・エケデ* というところで、エフーはユダの王アハズヤの身内の者たちに出会った。彼が「おまえたちはだれか」と聞くと、彼らは、「私たちはアハズヤの身内の者* です。王の子どもたちと、王母の子どもたち*の安否を尋ねに下って来ました」と答えた。

*“谷の家”

*何も知らずアラムとの戦いの戦勝祝いに来た？

*ヨアシュ王の子ら、イゼベルの子らは全滅。



北10 エフー王 殺戮 II 列王記10:14

エフーが「彼らを生け捕りにせよ」と言ったので、人々は彼らを生け捕りにした。そして、ベテ・エケデの水溜め場で彼ら四十二人を殺し、一人も残さなかった。

- 殺された42人は、南王国のヨラムに嫁いだイゼベルの娘アタルヤの子ら。
- アハブ一族の南北統合を目論んでいた？
 - ➔ アハズヤに続き、南王国のアハブの血筋はすべて殺された。



欲望の実現を目前に
イゼベルは討たれた

北10 エフー王 ヨナダブ II 列王記10:15

彼がそこを去って行くと、彼を迎えに来た*レカブの子ヨナダブ*に出会った。エフーは彼にあいさつして言った。「あなたの心は、私の心があなたの心に対してそうであるように、真っ直ぐですか。」ヨナダブは、「そうです」と答えた。「そうなら、こちらに手を伸ばしなさい。」

*新王エフーを出迎えにサマリアから来た。

*“ヤハウエは厭わない方”

➡主は、好んで裁かれるわけではないが、
下すべき裁きは、厭わない方である。



北10 エフー王 根絶 II 列王記10:15~16

ヨナダブが手を差し出すと、エフーは彼を戦車の上に引き上げて、「私と一緒に来て、【主】に対する私の熱心さを見なさい」と言った。

エフーは彼を自分の戦車に乗せて、サマリアに行った。エフーは、アハブに属する者でサマリアに残っていた者を皆殺しにし、その一族を根絶やしにした。【主】がエリヤにお告げになったことばのとおりであった*。

*一連の出来事は、明確に、主による裁き。



北10 エフー王 布告 II 列王記10:18~19

エフーはすべての民を集めて、彼らに言った。
「アハブは少ししかバアル*に仕えなかったが、エフーは大いに仕えるつもりだ。

だから今、バアルの預言者や、その信者、およびその祭司たちをみな、私のところに呼び寄せよ。一人も欠けてはならない。私は大いなるいけにえをバアルに献げるつもりである。列席しない者は、だれも生かしてはおかない。」エフーは、バアルの信者たちを滅ぼすために、策略をめぐらしたのである。

*シドン人イゼベルがバアル礼拝を持ち込んだ。



北10 エフー王 II 列王記10:20~21

エフーが、「バアルのためにきよめの集会を催せ」と命じると、彼らはこれを布告した。

エフーが全イスラエルに人を遣わしたので、バアルの信者たちがみなやって来た。残っていて、来なかった者は一人もいなかった。彼らがバアルの神殿*に入ると、バアルの神殿は端から端までいっぱいになった。

*アハブ、イゼベルが築いたバアルの神殿

アハブ一族の権威を示す象徴でもあっただろう。



北10 エフー王 II 列王記10:22～23

エフーが衣装係に、「バアルの信者すべてに祭服を出してやれ」と命じたので、彼らのために祭服を取り出した*。

エフーとレカブの子ヨナダブは、バアルの神殿に入り、バアルの信者たちに言った。「よく見回して、ここには【主】のしもべがあなたがたと一緒に一人もおらず、ただバアルの信者たちだけがいるようにせよ。」

*丁重なもてなしを示す。

➡バアルの祭司たちは安心しきっただろう。



北10 エフー王 II 列王記10:24~25

こうして彼らは、いけにえと全焼のささげ物を献げる準備をした。エフーは八十人の者を神殿の外に配置して言った。「私がおまえたちの手に渡す者を一人でも逃す者があれば*、そのいのちを、逃れた者のいのちに代える。」

全焼のささげ物を献げ終えたとき、エフーは近衛兵と侍従たちに言った。「入って行って、彼らを討ち取れ。一人も外に出すな。」

*主が聖絶の命令を下されていたか。



北10 エフー王 II 列王記10:25～26

そこで、近衛兵と侍従たちは剣の刃で彼らを討って投げ捨て、バアルの神殿の奥の間にまで踏み込んだ。

そして、バアルの神殿の石の柱を運び出して、これを焼き、**バアルの石の柱***を打ち壊し、バアルの神殿も打ち壊し、これを**便所とした***。それは今日まで残っている。

*石の柱 …バアルのシンボル。これ自体偶像。

*バアルの神殿を決定的に汚し、再建不能に。





Ⅲ. エフー王の治世 列王記第二 10章27～36節

北10 エフー王 金の子牛 II 列王記10:28~29

このようにして、エフーはバアルをイスラエルから根絶やしにした。

ただしエフーは、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪、すなわち、ベテルとダンにあった金の子牛*に仕えることから離れようとはしなかった。

*子牛は、動物の犠牲では最上のもの。

主にささげる犠牲が、礼拝の対象である神に!!

■ 神として礼拝すべき真実の贖い主は、過越祭に十字架につけられたメシア、イエス。



動物の犠牲は
罪を覆うだけ

金の子牛は
偽メシア!!

北10 エフー王 祝福と罪 II 列王記10:30~31

【主】はエフーに言われた。「あなたはわたしの目にかなったことをよくやり遂げ、アハブの家に対して、わたしが心に定めたことをことごとく行ったので、あなたの子孫は四代目まで、イスラエルの王座に就く。」

しかしエフーは、心を尽くしてイスラエルの神、【主】の律法に歩もうと心がけることをせず、イスラエルに罪を犯させたヤロブアムの罪*から離れなかった。

*偶像礼拝を脱せず、律法に背き続けたエフー



エフー王朝は
きっちり4代目まで

北10 エフー王 ハザエル II 列王記10:32~31

そのころ、【主】はイスラエルを少しずつ削り始めておられた。**ハザエル***がイスラエルの全領土で彼らを打ち破ったのである。

すなわち、ヨルダン川の東側、ガド人、ルベン人、マナセ人のギルアデ全土、つまり、アルノン川のほとりにあるアロエルからギルアデ、バシヤンの地方にまで及んだ。

*エリヤが告知し、エリシャが油注いだアラムの王

■ハザエルにより、イスラエルはヨルダン川東岸を完全に失った。



北10 エフー王 II 列王記10:34~36

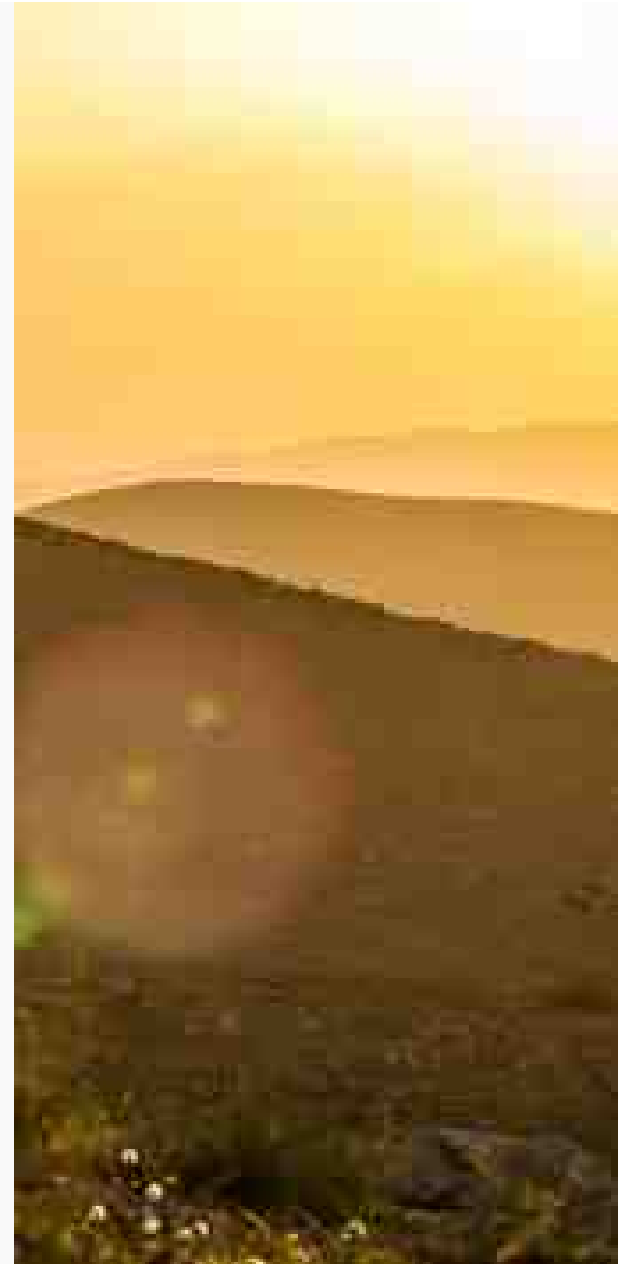
エフーについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

エフーは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。彼の子**エホアハズ***が代わって王となった。

エフーがサマリアでイスラエルの王であった期間は**二十八年***であった。

*“ヤハウエが所有された”

*これまでの北王国の王では最長!!





IV. 南王国・惨劇の中の希望

列王記第二 11章

神殿の丘・夕景

北王国 イスラエル

南王国 ユダ

北王国最悪の時代 🦴

エリヤ

エリシャ

【エフー王朝】

エフー

エホアハズ

ヨアシュ

28年

17年

イゼベル 🦴

【オムリ王朝】

オムリ

VII アハブ 🦴

ヨラム

12年

22年

12年

アハズヤ
2年

アタルヤ

6年

アサ ♡

IV ヨシャファテ ♡

ヨアシュ ♡

ウジヤ

41年

25年

ヨラム

アハズヤ
1年

40年

(+ 共同統治9年)

オバデヤ

南7 アタルヤ | アタルヤ II 列王記11:1~2

アハズヤの母アタルヤ*は、自分の子が死んだと知ると、ただちに王の一族全員を滅ぼした*。

*“主に苦しめられた” 名前自体が呪い?!

…シドン出身のバアル礼拝者イゼベルの娘。

北王国から南王国のヨラムに嫁いだ。

*自分の孫たちまで手をかけたアタルヤ

■アタルヤ自身が、王権を手に。

➔王となった女性は、南北史上アタルヤだけ

■ダビデ王家の断絶 ➔神への最大の反逆



南7 アタルヤ ヨアシュ II 列王記11:2

しかし、ヨラム王の娘で、アハズヤの姉妹のエホシェバ*は、殺される王の子たちの中からアハズヤの子ヨアシュ*をこっそり連れ出し、寝具をしまいう小部屋にその子とその乳母を入れた。人々が彼をアタルヤから隠したので、彼は殺されなかった。

*“主は誓われた”

*“主による贈り物”

■ かるうじて守られたダビデ王家の系譜。



南7 アタルヤ エホヤダ II 列王記11:3~4

彼は乳母とともに、【主】の宮に六年間、身を隠していた。その間、アタルヤが国を治めていた。

七年目に、エホヤダ*は人を遣わして、カリ人*と近衛兵それぞれの百人隊の長たちを【主】の宮の自分のもとに来させ、彼らと契約を結んで【主】の宮で彼らに誓いを立てさせ、彼らに王の子を見せた*。

*“ヤハウエは知っている”

*カリ人 …聖書でこのみ。不明。

*成長して隠しきれなくなった？

→七年目の安息年とも関連？



南7 アタルヤ 策略 II 列王記11:5～6

彼は命じた。「あなたがたのなすべきことはこうだ。あなたがたのうちの三分の一は、安息日に務めに当たり、王宮の護衛の任務につく。

三分の一はスルの門に、もう三分の一は近衛兵舎の裏の門にいるように。あなたがたは交互に王宮の護衛の任務につく。」

■ アタルヤのいる王宮を包囲する布陣



南7 アタルヤ II 列王記11:7~8

あなたがたのうち二組は、みな安息日に務めに当たらない者であるが*、【主】の宮で王の護衛の任務につかなければならない。

それぞれ武器を手にして王の周りを囲め*。その列を侵す者は殺されなければならない。あなたがたは、王が出るときにも入るときにも、王とともにいなさい。」

*交替で王宮を護衛する近衛兵全員が味方に!!

*堅く王を護衛するように見せながら

王を完全に孤立させる。



南7 アタルヤ II 列王記11:9～10

百人隊の長たちは、すべて祭司エホヤダが命じたとおりに行った。彼らは、それぞれ自分の部下たちを、安息日に務めに当たる者も、安息日に務めに当たらない者も、祭司エホヤダのところに来て来た。

祭司は百人隊の長たちに、【主】の宮にあったダビデ王の槍と丸い小盾*を与えた。

*王の戴冠式に使用するための儀式用の槍と小盾。



南7 アタルヤ II 列王記11:11~12

近衛兵たちはそれぞれ武器を手にして、神殿の右側から神殿の左側まで、祭壇と神殿に向かって王の周りに立った。

エホヤダは王の子を連れ出し、王冠をかぶらせ、**さとしの書***を渡した。こうして人々は彼を王と宣言し、彼に油を注ぎ、手をたたいて「**王様万歳***」と叫んだ。

*申命記(律法) …律法の上に王は立つ。

*“ハーヤー・メレク” “王よ(主によって)あれ”

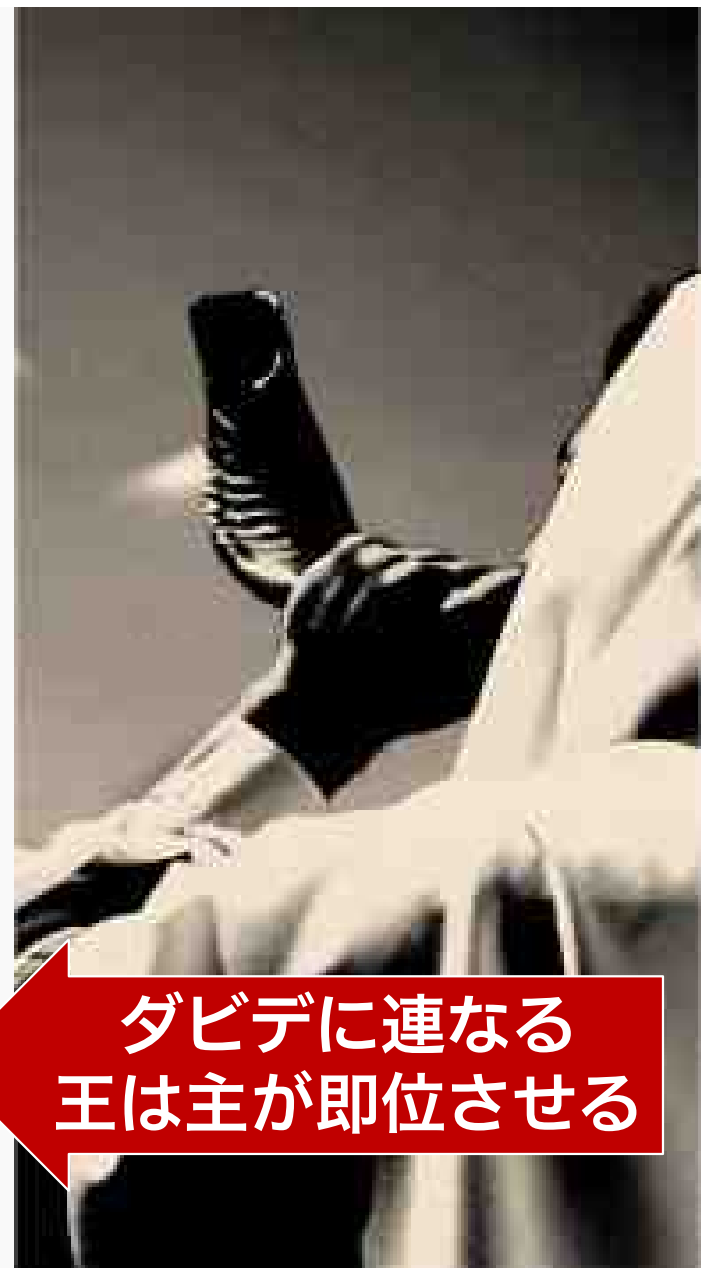


南7 アタルヤ II 列王記11:13~14

アタルヤは近衛兵と民の声を聞いて、【主】の宮の民のところに行った。

彼女が見ると、なんと、王が定めのとおり
柱のそばに立っていた。王の傍らに隊長たちや
ラッパ奏者たちがいて、民衆がみな喜んでラッ
パを吹き鳴らしていた。アタルヤは自分の衣を
引き裂き、「謀反だ、謀反だ*」と叫んだ。

*時すでに遅し、すでに戴冠式はなされた。
ヨアシュが王であり、反逆者はアタルヤ。



ダビデに連なる
王は主が即位させる

南7 アタルヤ II 列王記11:15~16

祭司エホヤダは、部隊を委ねられた百人隊長の長たちに命じた。「この女を列の間から連れ出せ。この女に従って来る者は剣で殺せ。」祭司が「この女は【主】の宮で殺されてはならない*」と言ったからである。

彼らは彼女を取り押さえた。彼女が馬の出入り口を*通って王宮に着くと、彼女はそこで殺された。

*偶像礼拝者の血で主の宮を汚さないように。

*僕が出入りする通用門の裏口を*通って

→完全に地に堕ちたアタルヤの偽りの権威



南7 アタルヤ II 列王記11:17~18

エホヤダは、【主】と、王および民との間で、彼らが【主】の民となるという**契約***を結ばせ、王と民との間でも**契約**を結ばせた。

民衆はみなバアルの神殿に行って、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を徹底的に打ち砕き、バアルの祭司**マタン***を祭壇の前で殺した。祭司エホヤダは【主】の宮に管理人を置いた。

*ユダの王と民の王国は、神との**契約**に基づく。

➔律法に基づく**確認**がされたのだろう。

*“ギフト” …アタルヤが連れ込んだ祭司か。



南7 アタルヤ II 列王記11:19~21

彼は百人隊の長たち、カリ人、近衛兵たちと民衆すべてを率いた。彼らは王を【主】の宮から連れて下り、近衛兵の門を通過して王宮に入った。王は王の座に着いた。

民衆はみな喜んだ。アタルヤは王宮で剣で殺され*、この町は平穏となった。

ヨアシュは七歳で王となった。

*神の民は石打刑。異教徒として討たれたアタルヤ

アハブ、イゼベルの系譜は完全に途絶された





V. まとめと適用

主の約束を置いて、今を歩む力を得よう

エルサレムの夕景

【突きつけられる神の裁きの厳格さ】

- エリヤ、エリシャを通し、油注がれた王エフーによる聖絶。
 - ➔ 北王国のヨラム王、南王国のアハズヤ王が相次いで討たれ、ヨラムの子70人、アハズヤの身内の42人も殺された。
- エリヤからアハブに告げられた通り、オムリ王朝は完全に断たれた。
- アハブが、バアル崇拝者イゼベルを妻に迎え、バアルを崇め、預言者たち、信仰者たちを迫害し殺した、主からの報いとして。

聖なる神は、一つの罪も見逃されることはない

【裁きの器として用いられる者の変わらぬ原則】

- 情け容赦なく抜け目ない、エフーの冷酷な性質をも主は用いられた。エフーによる聖絶は、明記された通り、主ご自身が下された裁き。
- 裁きの器として用いられたエフー自身にも求められる主への従順。驕り高ぶり、主に背くなら、その報いは自分自身に返ってくる。
- 聖絶の功績ゆえ、4代目の子孫までの王権を保証されたエフーだが、金の子牛礼拝から離れず、それ以上の祝福は得られなかった。

裁きの主権は、すべて主ある。人はただ、従う他ない。

【偽メシア、反キリスト、偽教師の系譜を見抜く力を!!】

■ 子牛は、動物の犠牲では最上のもの。

ヤロブアムの金の子牛は、元来、最上のささげものを示していた？

■ 間もなく、金の子牛自体が、人々の崇拝の対象となった。

罪を一時的に覆うだけの犠牲の動物が崇められた。➡偽メシア!?

■ 人の罪を完全に贖う真実のメシアは、歴史上唯一、イエスだけ!!

今もあふれる、あらゆる偽メシア、反キリスト、偽教師を退けよう。

主イエス以外の仲介者など一切存在しない 認めてはならない!!

【求められるのは、誰でもない、私自身の信仰の成長!!】

- この時点で裁きの対象となったのは、アハブの一族。
しかし、罪を重ねた果てに、民も裁きの対象に(アッシリア捕囚)。
- 王への裁きを目の当たりに、民もまた深い悔い改めを求められた。
常に問われるのは、私自身の信仰、私自身の悔い改めだと覚えよう。
- 約束の民には、主の約束の徹底した従順が求められる。
主の約束の成就・福音を信じて救われた私たちも同様だ。
見捨てられることはないイスラエルも、罪への懲らしめは免れない。

主の命令に従って歩み、主の祝福に満たされていこう

【断絶された北の王朝・継続された南の王朝】

- 北王国のオムリ王朝は、完全に断絶された一方、南王国は、ダビデから続く王の系譜が守られた。
 - ➔ 主は、ダビデ契約に基づく約束ゆえ、ダビデの王家を守られた。
- 容易に罪を犯し、主から離れるもろさは、誰もが同じ。それでも歩みを守られる者は、主の約束に堅く立つ者。
 - ➔ 主が私の罪のため、十字架で死んで葬られた。
福音を信じた者に約束された、永遠の救いに堅く立とう。

永遠の保証の上に、悔い改めとゆるしと成長の道がある

【主の約束に堅く立ち続けていこう】

- 自分自身の内にある信仰の激しい戦い。罪に呑み込まれるのは簡単。気づかされた自分の罪を、聖霊に力を得て、聖絶していこう。
- 主の約束である御言葉に堅く立ち続けることが、最大の対抗手段だ。どんなささいな罪も、聖なる神は見逃されることはない。
- 主イエスの贖いを信じて、私は完全に罪から贖い出された。完全に永遠に、主の所有とされた私を、喜んで主にささげよう。

わたしの内に希望はない。主の約束に生きる者に希望はある。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために^{じゅうじか し}十字架で死に、

②^{はか ほうむ}墓に葬られ、

③^{みっかめ ふっかつ}三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^{しん あゆ はじ}信じて歩み始めて^{つみ おか}なお、罪を犯すわたしがいます。

^{しゅ やくそく}ただ^{じじつ こころ}主の約束の上に、生かされている事実を心にとめます。

どうか、^{せいれい たす}ご聖霊の助けによって、^{つみ}こびりつく罪をきよめてください。

^さつまりきは^{く あらた}避けられませんが、悔い改めつつ、^{しゅ えいこう}主の栄光のゴールに

^{い もの}近づいて行く者として、^{みちび}導いてください。

^{しゅ}主イエス・キリストのみ^な名によって^{いの}祈ります。 アーメン」